

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	3271400172
法人名	社会福祉法人 あおぞら福祉会
事業所名	老人グループホーム とぎしの家
訪問調査日	平成 21 年 1 月 29 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 10 日
評価機関名	株式会社 ワールド測量設計

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	32714900172
法人名	社会福祉法人 あおぞら福祉会
事業所名	老人グループホーム とぎしの家
所在地	島根県雲南市大東町東阿用83-1 (電話)0854-43-6555

評価機関名	株式会社 ワールド測量設計		
所在地	島根県出雲市荻椋町274-2		
訪問調査日	平成21年1月29日	評価確定日	平成21年3月10日

## 【情報提供票より】(H20年 6月 1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 1 月 6 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	19 人
職員数	23 人	常勤	9 人, 非常勤 14 人, 常勤換算 8.3 人

### (2)建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋建	造り
	1階建ての	1階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 (期間:10年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,300 円		

### (4)利用者の概要( 6月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	5 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.77 歳	最低	79 歳	最高	94 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	公立雲南総合病院 ・ 横山医院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広大な自然に囲まれた環境に、溶け込むような木の温もりが感じられる古民家風な建物である。地域福祉の核を担う法人として、常に地域住民のニーズを把握し、熱意を持って梓にはまらないサービスや先駆的な取り組みには感心させられる。併設の通所サービスに加え、ホームでの共用型通所介護や短期入所も開始され、切れ目の無い継続した馴染みの関係を大事にされている。今年、開設9年目であり、利用者の高齢化、重度化による日常生活や外出等行動の制限は否めないものの、その日その時の利用者の気持ちに寄り添い、柔軟に対応している。又、終末期ケアには開設当初から全職員で取り組まれており、利用者、家族らは安心して過ごされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を全職員で話し合い、改善シートを作って改善に努めた。又、運営推進会議で報告し参加者の意見を頂いている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については全職員が1項目ずつ取り組み、改めて、前回の評価結果や改善計画の点検を行った。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回の開催予定にしているが、出席者の負担や議題が少ないことから、今年度は3、4ヶ月に1回のペースで開催されている。より身近な意見を聞けるように参加メンバーを見直し、近隣の方に来て頂いたり、利用者家族にも交替で参加して頂くように改善した。今後は、報告や情報交換にとどまらず、具体的なサービスの向上に向け話し合い、取り組みにつながる有意義な会が定期的に開催される事を期待する。又、参加者からの意見や課題については、職員で話し合った結果を次回の会議で報告し、議事録に残し共有される事をお薦めする。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月の利用料は、直接持参して頂くのが基本となっており、その時には毎月発行する広報誌「あおぞら」を渡して利用者の状況報告や納納報告を行ったり、プランやサービスに関する意向や要望を聞いている。入所期間が長い方が殆どで、職員との信頼関係が構築されている。家族からの声で、年に1回、職員と利用者家族によるボランティアで庭の草取りや窓拭きが行われている。併設の通所サービスの利用者家族と合同で講演会や食事会の場を設けて、家族同士が話せる機会を作っている。家族交際の日帰り旅行や近くの温泉での望年会(忘年会)も恒例である。</p>
	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>老人会に出向き、認知症の予防や対応について話したり、ホーム主催の納涼会や、地域の行事を通して交流を図っている。散歩の時に挨拶を交わしたり、近くの小学生や同法人の保育園児らとの交流は日常的になっている。又、地域のボランティア「けあきの会」の事務局になっており、短期入所の利用がある時は、夜勤者に加え、登録ボランティア会員を活用するなど、地域の活性化につなげている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を柱に、利用者や家族、地域の方にもわかりやすい言葉で職員が日々大事にしている事を全職員で話し合い、ホームの理念として新たに「のんびり、ゆったり、心地よく」「やわらかな笑顔」「やさしい言葉」を掲げた。	○	ホームの理念は、職員のケア理念にとどまらず、地域密着型サービスとして「地域の中でその人らしい生活する支え」を含んだ理念が求められます。地域や利用者のニーズ、事業所の変化によって作り変えていって頂きたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	パンフレットは併設の事業所と共通のもので、法人の「運営理念」を記載し、利用者や地域に浸透をはかってきた。今回、職員らで作ったホームの理念は、額に入れホーム内に掲示されているが、周知、啓発はこれからといったところである。	○	これまでの法人理念に加え、ホームの理念を、広報誌などを使って家族や地域の方にも浸透していかれることを期待する。昨年、法人のサービスが増えており、合わせてパンフレットの見直しをされてはいかがでしょうか。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会に出向き、認知症の予防や対応について話したり、ホーム主催の納涼会や、地域の行事を通して交流を図っている。散歩の時に挨拶を交わしたり、近くの小学生や同法人の保育園児らとの交流は日常的になっている。又、地域のボランティア「けあきの会」の事務局になっており、短期入所の利用がある時は、夜勤者に加え、登録ボランティア会員を活用するなど、地域の活性化につなげている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を全職員で話し合い、改善シートを作って改善に努めた。又、運営推進会議で報告し参加者の意見を頂いている。今回の自己評価については全職員が1項目ずつ取り組み、改めて、前回の評価結果や改善計画の点検を行った。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催予定にしているが、出席者の負担や議題が少ないことから、今年度は3、4ヶ月に1回のペースで開催されている。より身近な意見を聞けるように参加メンバーを見直し、近隣の方に来て頂いたり、利用者家族にも交替で参加して頂くように改善した。	○	今後さらに、老人会や学校関係者、ボランティアの方、一般職員の参加も増やし、報告や情報交換にとどまらず、具体的なサービスの向上に向け話し合い、取り組みにつながる有意義な会が定期的開催される事を期待する。又、参加者からの意見や課題については、職員で話し合った結果を次回の会議で報告し、議事録に残し共有される事をお薦めする。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	積極的に市や県に改善や要望の働きかけをされている。市の介護サービス連絡会やグループホーム部会の研修などに参加し、担当者との情報交換もされている。介護用品の助成事業など市独自のサービスの普及も支援している。		今後もグループホームの先駆的存在として、現場の声を行政へ届けて頂くことをお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の利用料は、直接持参して頂くのが基本となっており、その時には毎月発行する広報誌「あおぞら」を渡して利用者の状況報告や出納報告を行ったり、プランやサービスに関する意向や要望を聞いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所期間が長い方が殆どで、少なくとも月1回は家族が来訪されることもあり、職員との信頼関係が構築されている。家族からの声で、年に1回、職員と利用者家族によるボランティアで庭の草取りや窓拭きが行われている。		併設の通所サービスの利用者家族と合同で講演会や食事会の場を設けて、家族同士が話せる機会を作っている。遠足や宿泊旅行もしているが、利用者や家族の高齢化、重度化により、困難になってきている。今後も現状にあった家族交流の工夫され継続されることを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年は2名の退職があったが、職員数は余裕をもっているので影響はみられず、ゆったりした個別の関わりが出来ている。隣接する認知症型通所サービスを利用されていた方の入所が多く、あえて職員を兼務させることで、継続した馴染みの関係を作っており、日によって交替しても利用者にはダメージはみられない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修には勤務として参加出来る体制にある。参加後は復命を書き、職員会で発表することで全職員が共有している。各種係を決めて交替で行うことで自覚や意欲の向上に繋げている。又、年1回は施設長と1対1で話す機会を設けている。	○	経験のない新任職員にもわかりやすい、9年間の経験を活かしたホーム独自のマニュアルを構築していつて頂きたい。又、自己評価で課題とされている権利擁護や虐待防止、身体拘束、衛生管理などについて学習する機会を実現して頂きたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム部会や交流会では、事業所が経費を負担し、パートを含めた職員が交代で参加出来るようにしており、積極的な交流を図っている。	○	隣接の通所サービスでは他事業所との交換研修が行われているようなので、是非、グループホームも行われる事をお勧めします。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の認知症型通所サービスに加え、ホームでの共用型通所介護や短期入所も開始され、切れ間無い継続した馴染みの関係を大事にしている。隣接する通所サービスを利用されていた方の入所が多く、あえて職員を兼務させることで、継続した馴染みの関係を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	高齢化、重度化によって、日常生活の介助が多くなってきてはいるが、その中でも残存機能を活かしたケアに努め、自分で食べよう、片付けようとする姿や職員を気遣って下さる言葉掛けに職員は励まされたり喜びを感じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分から意思表示されることが殆どみられないため、職員は必ず声をかけて本人に聞いてからケアを行っている。長い付き合いであり、たとえ言葉にならなくても、表情や微かな動きから気持ちを汲み取るよう、全職員が心がけ実践している。日々の気付きは生活日誌に書き込み、全職員で共有する。特に大切な事は口頭でも伝えるよう徹底している。		自分しか気付かない、その方の癖や意思表示の仕方、負担の少ない援助方法などあるかも知れません。些細な気付きも個人記録に残す習慣をつけ共有に努めましょう。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	隣接の通所サービスを利用され顔馴染みになっての入所が殆どである。ホーム長、主任、計画作成者がそれぞれ3名ずつ担当し、利用者、家族の意向や主治医の助言を基にプラン作成をしている。それを毎月の職員会議において全職員で話し合い、最終的なプランとしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	食事・口腔ケア・排泄・身体状況・精神・夜間ケアに分類し現状、目標、具体策、経過や評価を記入している。担当者が3ヶ月毎の定期的な見直しや状態の変化があった場合は適宜、家族とも相談して見直している。それを毎月の職員会議において全職員で話し合って練り直し、確定日としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共有スペースを利用した通所介護、空き部屋を使つての短期入所、美容院への送迎や買い物支援、家族の事情によっては通院介助もしている。利用者、家族の希望による個別の外出支援を行ってきたが、利用者の高齢化、重度化により少なくなっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医と連携し、利用者の希望される主治医となっている。基本的には家族同行の受診となっているが、事情があれば職員が付き添う事もある。協力医療機関の医師や看護師による定期的な回診の他、24時間いつでも相談出来る体制にあり、利用者、家族、職員に安心を与えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアには開設当初から取り組まれており、24時間、医療機関や看護職員らとの連携体制を整えている。食事の摂取状態など利用者の状態変化に応じて主治医、家族と一緒に話し合い、リスクを説明した上で「看とりの確認書」も作成し今後の方針を共有している。		これまでも、全職員で看取りケアを行ってきており、技術的にも精神的にも向上してきているが、救急隊や看護職員から応急手当の講習を定期的に継続し、一般職員の不安の軽減に努めて頂きたい。又、相談出来る認知症の専門医の確保は地域としての課題であろう。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導時の声がけや、個人情報の取り扱いについて常に、気を配り、職員同士で注意しあうシステム作りをしている。又、気付いた点は生活日誌に反省を書き全職員で共有している。調査の際の声掛けは優しく配慮された声掛けがなされていた。		自分達で、自己評価の改善点に掲げ、話しあったり、更なる改善に努めている。敬語に限らず、馴染みある方言など、それぞれの利用者が望まれる話し方を検討して頂きたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の3分の2は車椅子を利用されている。月1回、理学療法士から、マッサージやリハビリ、拘縮予防の指導を受け、利用者ごとに評価しながら実践している。一人ひとりの体調に配慮しながら、食事や入浴時間など生活は流動的である。居室で寝付けられない方はホールのソファで休まれる時もある。その日その時の利用者の気持ちを確認しながら楽しみをみつけ柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は隣接する通所事業所で調理されたものを運んでいる。高齢化により調理は難しくなったが、出来る範囲で盛り付けや片付けを手伝って下さる利用者はある。朝食はパンやお粥が選択出来る。食事の時には、全職員が利用者と一緒にテーブルを囲み、同じ物を食べ、食事を楽しまれている姿に感心した。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望されれば毎日入浴出来る。時間や回数は、利用者の希望と体調に応じ、2日に1回は支援している。重度な方が多く、負担にならないようにシャワー浴を行ったり、浴槽に入られる時には職員二人で介助を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみやテーブル拭き、食器拭きなど出来る事を見つけて力を発揮してもらう機会を作っている。アロマオイルを入れた足浴は利用者に好評である。小学生と一緒に干し大根を作ったり、保育園児との交流は利用者の楽しみになっている。又、家族交えての日帰り旅行や近くの温泉での望年会(忘年会)も恒例である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや買い物機会は少なくなり、屋内での活動が中心になっている。気候が良い時には、散歩やウッドデッキで日向ぼっこをしたり、畑の野菜を収穫したり楽しんでいる。地域の馴染みの美容院に行ったり、来て頂いたりして整髪されている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関や居室に鍵をかけることはない。現在は、歩行が困難な方が多く、一人で外出される方はおられない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、地元消防団と連携し、消火訓練や避難訓練をしている。昼と夜の想定で行われており、火災緊急通報システムの稼働や近隣に住む職員10名は5分以内でかけつけられるように体制を整えている。特に今年度は消防署員の方に来て頂いての訓練が実施出来た。	○	近隣住民の協力も得られるよう継続して働きかけて頂きたい。又、川が近いので水害時の非難場所や避難経路の見直し、長期化した場合の受け入れ施設など協力体制も検討しておかれた方が良いでしょう。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は調理師がたて、刻み、トロミ食等、個別に提供している。車椅子の方をはじめ運動量が少なくなっており、殆どの利用者が便秘傾向にあり、薬だけに頼らず、牛乳や漢方茶により改善に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子利用者が多くなり、又、共用型デイサービスの開始により日中の利用者、職員の人数が増え、ホールが手狭に感じられるようになったが、一部の壁を取り払い、コタツやソファを置くなど、出来る範囲で工夫している。ホールは床暖房で暖かく、加湿器が各居室まで置かれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の部屋がわかりやすいように、職員手作りのネームプレートや利用者の好みの色柄で作った暖簾をかけている。居室に洗面やトイレもあり広々している。入居前に自宅を訪問し、部屋の様子を把握し、使い慣れた家具や持ち物を持ってきて頂けるようお願いしている。家具は全て持ち込みで、家族の写真を飾られた部屋、ベッドを使用される方、畳を敷かれている方と各々の個性がみられる居室になっていた。		